	市	長	助	役	危機管理監	課長	室 長	係 長	係 員
Ī									

会議等報告書

会議等の名称			防災教育に関する意見交換会				
			(気仙沼市地震·津波防災検討会議 「防災教育検討部会」)				
日		時	平成18年3月2日(木) 13:00~15:10				
場		所	気仙沼市 地域交流センター 交流室 C				
出	席	者	気仙沼市教育委員会 阿部教育長,菅原学校教育課長,鈴木総務課長補佐				
			市内20小中学校(水梨小,松岩中欠席)				
			総務課危機管理室 佐藤室長,金野係長,鈴木主任主事,佐々木主事				
報	告	者	総務課 危機管理室 主任主事				

1. 開 会 2. あいさつ: 阿部教育長

3. 議事

1. 経緯説明 : 「宮城県沖地震・津波への備え」「住民の防災意識高揚」

「防災マップワークショップ」「広い世代への啓発」「学校を核とした取組」

2. 課題について: 「教材・情報・人材の不足」: 2006 県土木事務所アンケート

「映像等の資料が有効」: 2005 東北大学アンケート

3. 防災教育の紹介: 気仙沼小学校「防災探検隊」: 防災マップ作成

浦島小学校「人形劇使用 防災講座」「県・市出前講座」

鹿折中学校「チリ地震津波の記憶」発刊

月立小学校「防災キャンプ」: ひなん,炊き出し,講座,マップ

階上中学校「通年型総合学習」:被災体験講話,住民アンケート,発表会

4. 意見交換会

- ・地域が一体となって取り組んだ。 ・学校全体(生徒も先生も)での意識向上
- ・総合学習の時間を活用,評価は難しい。
- ・学校だけではなく PTA の協力を得て地域に広げたい。 ・地区懇談会も有効
- ・登下校時の訓練の実施の必要性・避難所開設時の対応を示してほしい。
- 4. その他 (事務局からの提供・協力可能資料の紹介)
 - ・CD, DVD, 各種映像, 他県の事例などの紹介,機材の貸与,職員の派遣
 - ・クロスロード(仮想状況対応判断訓練)の紹介

◎ 部会長(教育長)からの提言

子供を守るため大事なこと。 各校基本的カリキュラムを作成し取り組んでほしい 避難所開設の体制についても、危機管理室・教育委員会でとりまとめをお願いする。







経過・アンケート結果(課題)を聞いての感想・意見

白山:佐々木 ・このように集まることにも意義がある。 ワークショップの時間帯は?

危機:佐藤 - 自治会の希望に合わせ、概ね土日の日中。 それでも集まらない。

一昨年、鼎ヶ浦高校での防災講座時のアンケート調査。

若年時からの防災教育が高い効果となっている。

そこで、防災キャンプなどにより地域に入っていった。

議長:阿部 ・子供達が自らを守ることができるだろうか、そのように考えてほしい。

H17年度の取り組み例を見ての感想・意見

月立: 伊藤 ・ 強く感じたのは、学校を中心としてのネットワークにより地域が一体となった。 イベント型は、子供たちはすごく楽しみ、想像以上に活動ができた。

1泊2日で教育課程ではできないが、大事な取り組みであった。

月立小は山間部の孤立を想定。各学校毎の実態把握がスタートか。

子供達も「津波」には意識が高くないが、取り組みが必要と感じている。

議長:阿部 ・ 気仙沼市ということを考えると、やはり津波についても教えてほしい。

浦島:遠藤 ・ H16 PTA主催で防災キャンプ, H17 出前講座(基礎知識, 地区毎の作業) 学校のマップも作成したが実際の対応はあやしい。 H18 登下校時の訓練

地区の人にも案内し、一緒に回る。

階上:照井 ・ 当初は発想もなく手探り状態。市(危機管理室の助言)の協力が大。 全校での縦割りグループでの取り組み、また全職員が地域の危険箇所を 知るようになった。

生徒達も避難所認知率が18%→100%になった。

中学生は救う立場になれる。→小学校、保育所との協力も考えられる。

課題:総合学習で実施したが、評価が困難。

H18年度は総合訓練を構想。ロープ結束, 応急手当など

学区内には約1,500世帯あるので、学校としての避難所開設時の 対応についても今後要検討。

気小:岩槻

・マップ作成は下校時を考えた。本校の地区はブロック, 石垣, 狭い道路等 被害は一番大きいのではないか。

マップ作りはH17は3年生だけだったが全校に広げなければ。 子供は気づくがシミュレーションできない。(体験教材の必要性か?) 小さいときの教育が大人につながり、地域に広がっていく。

鹿中:栗和田|・チリ地震津波の被災体験者のインタビューをまとめ冊子にし. 200部製本 したが、今後これをどう発展させるかが今後の課題。 体験者からの講話や、当時被災筒所の現地調査などが考えられる。

風化させず、活かしていく大切な取り組み。 議長:阿部

大島中:山形 ・ 地震を感じたら即校内放送を実施している。 津波のメカニズムも紹介。 PTA会長は協力的、登下校時の訓練を実施したい。

面瀬小:山本 PTA地区懇談会で「防災」を取り上げた。 まず役員の防災研修を実施し、各地区へ伝講する形をとった。 災害発生時の安否確認が課題か。 子供~親~学校の連絡体制をどうするか。

条南中:村上 · 広げるためにはPTAの参加、地区懇談会も有効か。 発達段階に応じた防災教育の見直し、避難所対応が検討課題。

避難所開設の流れ、どこを使用するかなど決まっているか? 気中:小松 危機:佐藤 A:まず施設の被害状況確認。 開設までは校庭などで待機か。 要援護者の対応についても検討が始まっているところ。

階上小:菊田 |・市のマニュアルがあればそれを参考にしたい。 A:参集基準や概要はある。 現在詳細版をとりまとめ中。 危機:佐藤

教委:鈴木 地域防災計画を参照願う。

白山:佐々木 ・ 災害発生時には防災無線放送に従うこととしている。

それぞれの状況がある。細かい指示がなくても対応可能だろうか?

危機: 佐藤 A: 津波時はサイレンの使用などで周知する。

他は様々な取り組みで理解いただきたい。ケースバイケースである。

議長:阿部 ・学校教育でやることかとの意見もあるかも知れない。

総合学習での対応は限られてしまう。

学校と地域において学校はどのような立場か。

命を守るための防災教育は非常に大事なことで、学校と地域とをつなぐ 教育活動である。

各学校とも、実際問題に沿うよう「基本的なカリキュラム」を

知恵を出しながら危機管理室も協力いただき作成. 取り組んでほしい。

また、<u>避難所開設の体制</u>についても教育委員会と危機管理室でまとめをお願いする。

教育委員会としても、校長会・教頭会においても取り組んでいきたい。総合学習として、「いいテーマ」だと思います。

子供達の命を守るため、積極的に取り組んでほしい。